

ボランティアだより

かすみがうら市

四季の里

第18号

令和5年2月17日

発行

発行 ————— かすみがうら市ボランティア連絡協議会

編集 ————— かすみがうら市ボランティア連絡協議会広報委員会

事務局 ————— かすみがうら市社会福祉協議会内 ☎029-898-2527

配食ボランティアの 活動の様子(あすなる会)



千代田舞踊連合会の歩み

千代田舞踊連合会 堀内亮介

千代田舞踊連合会は、昭和の終りに婦人会の有志によって、立ち上げられました。



メンバーのみなさん



慰問活動の様子

活動内容は、町の盆踊り大会への参加をはじめ、施設への慰問活動を行なっていました。この活動を通じて、踊りを皆様に喜んでもらえることは生きがいにもなっています。

また仲間と、踊りの練習の積み重ねで友愛が生まれ、体力もおとろえません。活動開始から四十年も続く秘訣だと思っ

ています。

そんな折に、新型コロナ感染症の発生により活動も大きく制限されてしまいました。

今まで得ていた充実感を味わうことができず、時間が過ぎていく中で、会員と今後の活動について話し合ったところ、公共施設用地の除草ボランティアをはじめ、今後の慰問活動に備え、踊りの勉強会を、働く女性の家の許可をいただき研修活動をしています。不安定な状況ですが、立ち止まらず、活動していきたいと考えています。

ボランティア活動を始めて

佐賀ボランティア 大橋 信子

寒い日が続いています。皆さん、いかがお過ごしですか。コロナの影響で、三年近くボランティア活動が出来ませんでした。ただ昨年度、高等学校受験生の為に、

手作りマスクを作りました。一サークル二十五枚です。めいめい楽しみながらいたしました。また六月から、月二回の配食ボランティアの食事作りを再開しました。久々の集まりで少し口数も多くなりましたが、しっかり、マスクでなんとかになりました。今までの分、心をこめて作らせていただきました。また配達も、久々の訪問なので楽しみでした。みんな元気で本当に良かったです。作る人達も、そろそろ疲れがみですが、少しでも、何かしてあげることができれば、また生きがいです。

これからも、みんなで楽しみながら、少しでも喜んでいただければと思います。いつか私達もその立場になります。その日まで頑張ります。



あすなる会

あすなる会 元木 廣子

あすなる会は、平成五年に発足し、今年で三十年になります。会員数は九名です。

主な活動は、一人暮らしの高齢者のために、月一回の弁当作りです。その他に、地区社協との交流会があります。

これまでには、つくば市「湯ワールド」で、劇を観たり、大浴場に入ったり、又、食事の後、カラオケなども楽しみ、一日を過ごしました。「来年も計画して下さい。」などの声も聞かれました。

新型コロナウイルスが、世界中に蔓延してすでに、二年近くが過ぎようとしています。「皆で話をしながら食事をする」本来の姿が出来なくなってしまうかもしれませんが、未来はひらかれています。

ボランティアの仕事を通して、地域の皆様と共に歩いていきたいです。

ひまわり会

ひまわり会 吉田 幸子

二年間中止していた配食サービスが五月から再開されました。コロナ禍で始まる弁当作りは心配でしたが、サービスを受ける方の喜びと待ちわびていた事を聞いて会員一同励みになりました。気をつけてやっています。

又二年間おもうような活動ができませんでしたが、昨年の一月には、地域のほとんど焼きが行われ、食事関係のお手伝いを志筑地区女性三団体で協力する事になりました。

どんど焼きというのは、小正月の行事で、家内安全、無病息災を願い、古いお札やしめ縄などの正月飾りをわらや青竹で組んだやぐらで燃やし、新年の無事を祈るお祭りです。

地域の「志筑どんど焼き」実行委員の方々が、竹の切り出しから始め、高さ約

十四メートルもあるやぐらを作り、飾りつけをしました。会場では、昨年度で最後となった志筑小学校の校歌や獅子舞などが披露され、そして山伏による祈禱が行われ、その後小学生による火入れです。火柱があがるとたくさんの拍手がおこり、「健康で過ごせますように」祈りました。最後にお焚き上げの火で、しの棒の先についたモチが配られ焼いて食べるのですが、まっ黒になったモチのこげをはずしながら、「葉だよ」と言いながら食べました。楽しい一日でした。当日は約二百名の来場者で賑いました。このどんど焼きでは、私達の活動（食事サービスや交流会）などの経験が生かされたと思います。又これからの地域おこし等にも、いろいろな団体と協力して続けられたら幸いです。



どんど焼

明日も元気で

らくだ 池田光夫

「新型「コロナ」が日本に上陸してから早三年、こんなに長く続くとは、誰もが思っていなかったでしょう。」

一月には、第八波が到来しボランティア活動は出来ずに、ただひたすら解除されるのを願うばかりです。

こんな状況の中で、ロシアによるウクライナ侵攻に、世界中が毎日の報道に一喜一憂しているばかりです。

ボランティア活動は自主的に社会に参画することが大事だと言われるが、なかなか立ち上がることが出来そうではないのが現実です。

私達のサークルは、老人ホームの院外活動を支援することを主としています。思うようには出来ません。

小説に書いてありましたが、支援を受ける方々の状態・状況をよく観察し、自

分がその身になって「どうすれば、こうすれば」と、より良い方法で行動しなければなりません。健常者がその感覚を察知するのは並大抵ではありません。満足いく支援が出来たか、解らずに反省することが多いです。

益々高齢化社会が拡大するのは必至です。私自身も含めてサークル会員も皆さん後期高齢者です。今のところ何とか他の人の助けは必要としませんが、明日は、我が身に降りかかってくることでしょう。「明日も元気で」と願っています。



おもちゃ図書館ひよっこひろて

おもちゃ図書館ひよっこ

会長 田口幸次

おもちゃ図書館ひよっこは、2005年10月から始まり、今年で18年になります。現在の会員数は、女性14名、男性6名の計20名です。

活動を始めた当初は、コンテナトラック(2トン車)におもちゃを積んで「移動おもちゃ図書館」として、市内4カ所で順次開催していました。その後、2013年に市内公共施設のやまゆり館のみとなっています。

おもちゃ図書館の運営は、2005年10月から2009年3月まで社会福祉協議会が行い、私たちボランティアは運営補助のみでしたが、2009年4月以降は、ひよっこが運営を任せ現在に至ります。

おもちゃで遊ぶ子供たちの中には、同

じおもちゃを取り合うこともありますが、すぐに一方は別のおもちゃで遊び始めます。譲り合う気持ちが芽生え始めているのかなと思わされます。また、保護者の方々は、同年代の子どもをもつ者同士、話も弾んでいるようです。

新型コロナウイルス感染症の影響により、サークル内の研修も年2回行っていました。中止しています。まだまだおもちゃ図書館活動に制限のある状況ですが、これからも活動を続けていければと思います。



おもちゃ図書館



ひばりの会の活動

ひばりの会 麻生 登美子

図書館のボランティアを知っていますか。あじさい館ができた時に旧図書館から本を移動させる時にできたボランティアグループです。活動内容は、図書館に来る人が利用しやすいように本や雑誌等を整理します。その他年に一度の蔵書点検もしています。図書館内にある本等を一冊ずつバーコードで読み取りします。他にも古本の無料配布の手伝いもしました。

コロナの影響でボランティアが休みの時もありましたが、少しずつ活動が戻ってきました。しかし、ボランティアを始めた頃と比べると活動が縮小されているような気がします。その中で職員の方

々と元気に活動しています。

一緒にボランティアをしてみませんか。地味な活動ですが、本棚が綺麗になると気持ちがいいです。男性ボランティアの方もいます。興味がある方は、図書館へお声かけ下さい。たくさんの方が皆さんの来館を待っています。



…編集後記…

コロナ禍による制約がボランティア活動を妨げ、もどかしい思いをしてきた三年間。それでも、細心の注意を払う、工夫を凝らすなどして、各サークルが活動を続けています。

改めて思うことですが、サークル仲間との会話は、楽しみに加え、様々な情報を得ることができ、日常生活の参考にもなっています。ボランティアの対象となる方々とのふれあいも同様、いろいろな気づかされることも多くあります。それに、笑顔を交わし合う喜びは、金銭で得ることのできない温かな報酬と言えるのではないのでしょうか。

「四季の里」では毎号、様々なサークルの紹介をしています。興味関心のある活動へのご参加をお勧めします。多くの方からの、社協へのお問い合わせを心待ちにしています。

編集委員一同